

§6.4 三角比の性質

定理 6.4.1 θ が角度 90° の奇数倍でない任意の一般角 θ について、

$$\tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta}.$$

証明 xy 座標平面において、原点 O を極として x 軸の向きに延びる始線 Ox に対

する角度 θ の動径に属す点 $P = (x, y)$ ($P \neq O$) を

とり、 $\overline{OP} = r$ とおく。 $\tan\theta = \frac{y}{x}$ の値があるのは、

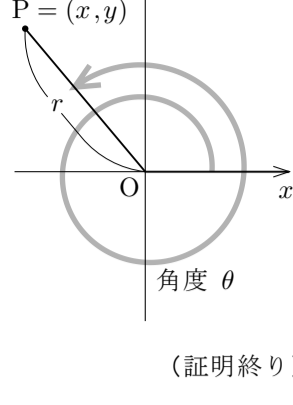
$x \neq 0$ のとき、つまり

$\theta \neq \pm 90^\circ$ かつ $\theta \neq \pm 270^\circ$ かつ $\theta \neq \pm 450^\circ$ かつ \dots

のとき、つまり θ が 90° の奇数倍でないときである。

このとき、 $\cos\theta \neq 0$ で、

$$\frac{\sin\theta}{\cos\theta} = \frac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}} = \frac{y}{x} = \tan\theta.$$



(証明終り)

定理 6.4.2 任意の一般角 θ について

$$(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1.$$

証明 xy 座標平面において、原点 O を極とし

て x 軸の向きに延びる始線 Ox に対する角度 θ

の動径に属す点 $P = (x, y)$ ($P \neq O$) をとる。

$O = (0, 0)$ なので、定理 6.0 より、

$$\overline{OP}^2 = (x-0)^2 + (y-0)^2 = x^2 + y^2.$$

$\overline{OP} = r$ とおく。 $\overline{OP}^2 = r^2$ なので、

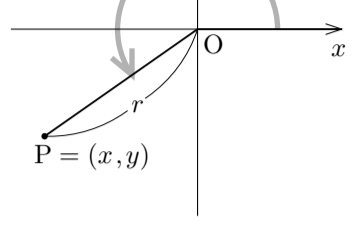
$$x^2 + y^2 = r^2.$$

定義より $\cos\theta = \frac{x}{r}$ 、 $\sin\theta = \frac{y}{r}$ なので、

$$(\cos\theta)^2 + (\sin\theta)^2 = \left(\frac{x}{r}\right)^2 + \left(\frac{y}{r}\right)^2 = \frac{x^2}{r^2} + \frac{y^2}{r^2} = \frac{x^2 + y^2}{r^2} = \frac{r^2}{r^2} = 1,$$

つまり $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$ 。

(証明終り)



例題 一般角 θ について $\sin\theta = \frac{5}{7}$ 、 $\cos\theta \geq 0$ とする。 $\cos\theta$ 及び $\tan\theta$ の値を求

める。
【解説】 定理 6.4.2 より $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$ 。 $\sin\theta = \frac{5}{7}$ なので、

$$\left(\frac{5}{7}\right)^2 + (\cos\theta)^2 = 1,$$

$$(\cos\theta)^2 = 1 - \left(\frac{5}{7}\right)^2 = 1 - \frac{25}{49} = \frac{24}{49},$$

$$\cos\theta = \pm\sqrt{\frac{24}{49}} = \pm\frac{\sqrt{24}}{7},$$

$\cos\theta \geq 0$ なので $\cos\theta = \frac{\sqrt{24}}{7}$ 。 更に、定理 6.4.1 より、

$$\tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta} = \frac{\frac{5}{7}}{\frac{\sqrt{24}}{7}} = \frac{5}{\sqrt{24}}. \quad \text{終}$$

問題 6.4.1 一般角 θ について $\sin\theta = \frac{4}{5}$ 、 $\cos\theta \leq 0$ とします。 $\cos\theta$ 及び $\tan\theta$

の値を求めなさい。

問題 6.4.2 一般角 θ について $\cos\theta = \frac{1}{3}$ 、 $\sin\theta \geq 0$ とします。 $\sin\theta$ 及び $\tan\theta$

の値を求めなさい。

定理 6.4.3 角度 90° の奇数倍でない任意の一般角 θ について、

$$1 + (\tan\theta)^2 = \frac{1}{(\cos\theta)^2}.$$

証明 一般角 θ は角度 90° の奇数倍でないとする。 このとき $\cos\theta \neq 0$ 。 定理

6.4.2 より $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$ 。 両辺を $(\cos\theta)^2$ で割ると、

$$\frac{(\sin\theta)^2}{(\cos\theta)^2} + \frac{(\cos\theta)^2}{(\cos\theta)^2} = \frac{1}{(\cos\theta)^2},$$

この等式の左辺は

$$\frac{(\sin\theta)^2}{(\cos\theta)^2} + \frac{(\cos\theta)^2}{(\cos\theta)^2} = \left(\frac{\sin\theta}{\cos\theta}\right)^2 + 1 = (\tan\theta)^2 + 1 = 1 + (\tan\theta)^2,$$

従って $1 + (\tan\theta)^2 = \frac{1}{(\cos\theta)^2}$ 。

(証明終り)

例題 一般角 θ について $\tan\theta = 3$ 、 $\cos\theta \leq 0$ とする。 $\cos\theta$ 及び $\sin\theta$ の値を求

める。
【解説】 定理 6.4.3 より $1 + (\tan\theta)^2 = \frac{1}{(\cos\theta)^2}$ なので、

$$\frac{1}{(\cos\theta)^2} = 1 + (\tan\theta)^2 = 1 + 3^2 = 10,$$

$$(\cos\theta)^2 = \frac{1}{10},$$

$$\cos\theta = \pm\sqrt{\frac{1}{10}} = \pm\frac{1}{\sqrt{10}},$$

$\cos\theta \leq 0$ なので $\cos\theta = -\frac{1}{\sqrt{10}}$ 。 更に、定理 6.4.1 より $\tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta}$ なので、

$$\sin\theta = \tan\theta \cos\theta = 3 \cdot \left(-\frac{1}{\sqrt{10}}\right) = -\frac{3}{\sqrt{10}}. \quad \text{終}$$

問題 6.4.3 一般角 θ について $\tan\theta = \frac{3}{2}$ 、 $\cos\theta \leq 0$ とします。 $\cos\theta$ 及び $\sin\theta$

の値を求めなさい。

xy 座標平面の点 $P' = (x', y')$

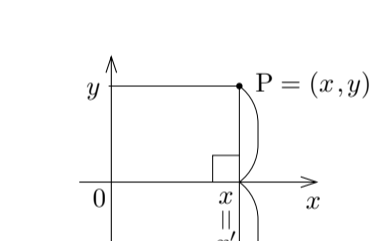
が点 $P = (x, y)$ と x 軸に関し

て対称であるとき、

$$x' = x, \quad y' = -y.$$

このことから次の定理が導かれ

ます。



定理 6.4.4 任意の一般角 θ について、

$$\sin(-\theta) = -\sin\theta, \quad \cos(-\theta) = \cos\theta,$$

θ が 90° の奇数倍でないとき $\tan(-\theta) = -\tan\theta$ 。

証明 実数 r について $r > 0$ とする。 点 O を原点

とする xy 座標平面の点 $P = (x, y)$ を次のように定め

る：線分 OP は始線 Ox に対する角度 θ の線分で、

$\overline{OP} = r$ 。 更に、点 $P' = (x', y')$ を次のように定め

る：線分 OP' は始線 Ox に対する角度 $-\theta$ の線分

で、 $\overline{OP'} = r$ 。 $\overline{OP} = \overline{OP'}$ で、始線 Ox に対する線

分 OP の角度は θ 、線分 OP' の角度は $-\theta$ なので、

点 $P' = (x', y')$ と点 $P = (x, y)$ とは x 軸に関して対称である。 従って、

$$x' = x, \quad y' = -y.$$

$\sin\theta = \frac{y}{r}$ 、 $\sin(-\theta) = \frac{y'}{r}$ なので、

$$\sin(-\theta) = \frac{y'}{r} = \frac{-y}{r} = -\frac{y}{r} = -\sin\theta.$$

$\cos\theta = \frac{x}{r}$ 、 $\cos(-\theta) = \frac{x'}{r}$ なので

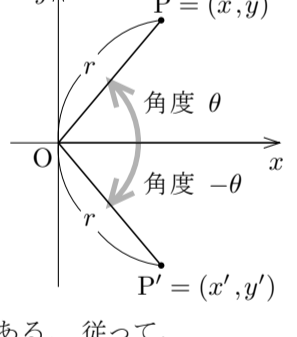
$$\cos(-\theta) = \frac{x'}{r} = \frac{x}{r} = \cos\theta.$$

更に、 θ が 90° の奇数倍でないとき、 $x \neq 0$ かつ $x' \neq 0$ で、 $\tan\theta = \frac{y}{x}$ 、

$\tan(-\theta) = \frac{y'}{x'}$ なので、

$$\tan(-\theta) = \frac{y'}{x'} = \frac{-y}{x} = -\frac{y}{x} = -\tan\theta.$$

(証明終り)



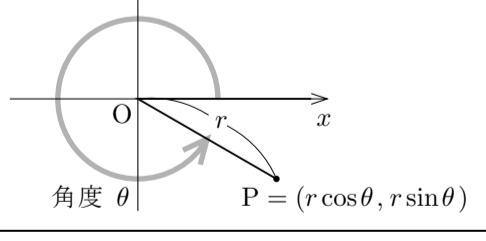
定理 6.4.5 xy 座標平面の点 P につ

いて、原点 O から x 軸の向きに延び

る始線 Ox に対する線分 OP の角度

が θ であるとき、 $\overline{OP} = r$ とおくと

$$P = (r\cos\theta, r\sin\theta).$$



証明 $r = \overline{OP}$ は線分の長さなので $r \geq 0$ 。 $r = 0$ のときと $r > 0$ のときに分

ける。

$r = 0$ のとき、 $\overline{OP} = 0$ なので $P = O$ 、 $r = 0$ より $(r\cos\theta, r\sin\theta) = (0, 0) = O$ ；

よって $P = (r\cos\theta, r\sin\theta)$ 。

$r > 0$ のとき、 $P = (x, y)$ とおく。 余弦と正弦の定義より $\cos\theta = \frac{x}{r}$ 、 $\sin\theta = \frac{y}{r}$

なので、

$$x = r\cos\theta, \quad y = r\sin\theta.$$

よって $P = (x, y) = (r\cos\theta, r\sin\theta)$ 。

(証明終り)

例題 点 O を原点とする xy 座標平面の点 P について、線分 OP の始線 Ox に対

する角度が 30° で $\overline{OP} = 5$ とする。 点 P を求める。

$\cos 30^\circ = \frac{\sqrt{3}}{2}$ 、 $\sin 30^\circ = \frac{1}{2}$ なので、定理 6.4.5 より、

$$P = (5\cos 30^\circ, 5\sin 30^\circ) = \left(\frac{5\sqrt{3}}{2}, \frac{5}{2}\right). \quad \text{終}$$

問題 6.4.4 点 O を原点とする xy 座標平面の点 P について、線分 OP の始線 Ox

に対する角度が 60° で $\overline{OP} = \frac{4}{3}$ とします。 点 P を求めなさい。

定理 6.4.6 任意の一般角 θ について、

$$-1 \leq \sin\theta \leq 1, \quad -1 \leq \cos\theta \leq 1.$$

証明 任意の一般角 θ について、定理 6.4.2 より $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$ 。 $S = \sin\theta$

とおき $C = \cos\theta$ とおくと $S^2 + C^2 = 1$ 。 これより $C^2 = 1 - S^2$ 。 C は実数な

ので $C^2 \geq 0$ 、よって $1 - S^2 \geq 0$ 。 この不等式を S に関する不等式と考えて解

く； $S^2 - 1 \leq 0$ 、 $(S+1)(S-1) \leq 0$ 、 $-1 \leq S \leq 1$ 。 故に $-1 \leq \sin\theta \leq 1$ 。 また、

$S^2 + C^2 = 1$ より $1 - C^2 = S^2 \geq 0$ 、この不等式を C に関する不等式として解くと

$-1 \leq C \leq 1$ 。 故に $-1 \leq \cos\theta \leq 1$ 。

(証明終り)